

3 一～五類、新型インフルエンザ等感染症全数把握感染症

(1) 一類感染症

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱は報告がなかった。

(2) 二類感染症

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）は報告がなかった。

(3) 三類感染症

ア 細菌性赤痢

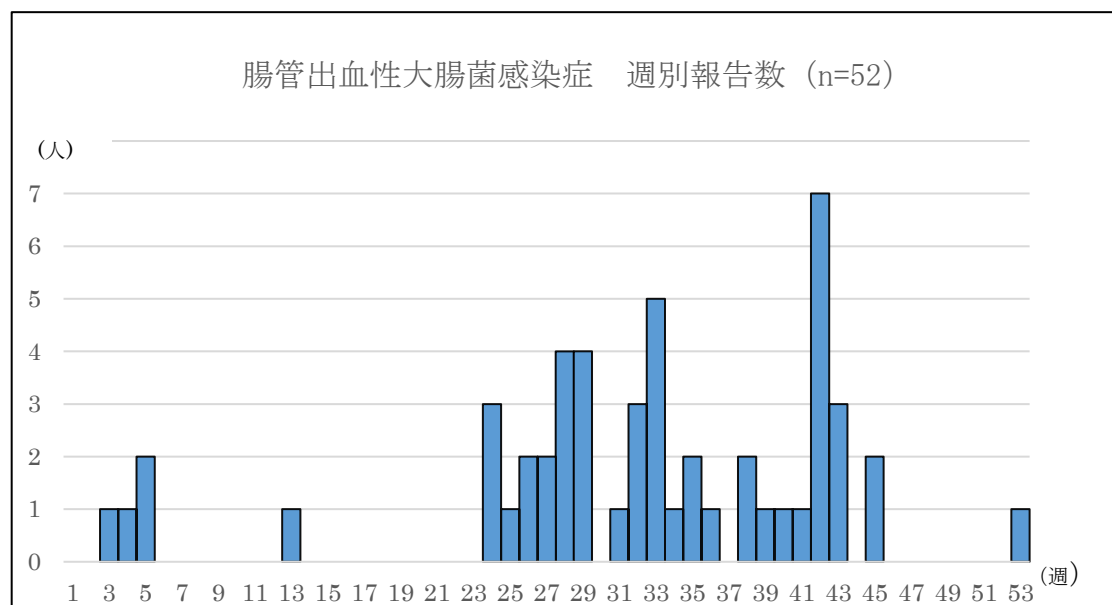
2020 年は 1 人の報告があった。菌種は *S.flexneri*、性別は男性で、年齢階級別では 20～29 歳であった。

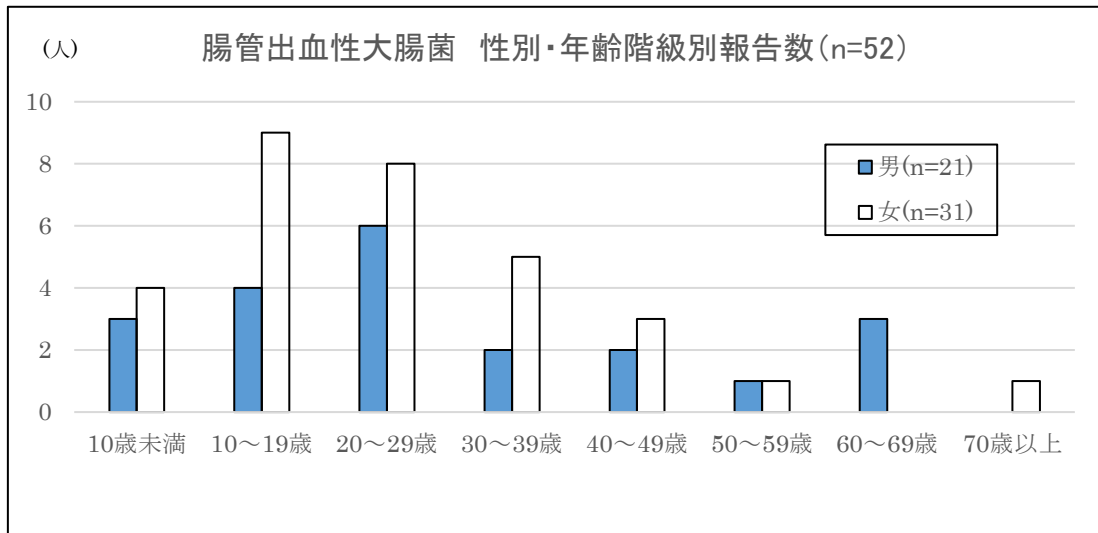
推定感染地域はネパール、推定感染経路は不明であった。

イ 腸管出血性大腸菌感染症

2020 年は 52 人の報告があった。症状別では患者 39 人、無症状病原体保有者 13 人であった。性別は男性 21 人、女性 31 人で、年齢階級別では 10 歳未満 7 人（うち 5 歳未満 4 人）、10～19 歳 13 人、20～29 歳 14 人、30～39 歳 7 人、40～49 歳 5 人、50～59 歳 2 人、60～69 歳 3 人、70 歳以上 1 人であった。推定感染地はすべて国内であった。

溶血性尿毒症症候群(HUS)と診断された者は 2 人で 10 歳未満と 20～29 歳であった。





腸管出血性大腸菌感染症 血清型・毒素型別報告数 (n=52)

血清型	毒素型	件数	血清型	毒素型	件数
026	VT1	6	0157	VT2	8
091	VT1	2		VT1、VT2	27
0111	VT1	1		不明	5
0165	VT1、VT2	1	不明	VT1	1
				VT2	1

溶血性尿毒症症候群発症例 (n=2)

受理日	性別	年齢	血清型・毒素型	推定感染地
6/15	女	4	0157 VT2	国内
9/30	女	28	0157 毒性不明	国内

ウ その他の疾患

コレラ、腸チフス、パラチフスは報告がなかった。

(4)四類感染症

ア E型肝炎

2020年は2人の報告があった。性別はすべて男性で、年齢階級別はすべて60～69歳であった。

推定感染地はすべて国内で、推定感染経路は経口感染が1名、不明が1名であった。

イ A型肝炎

2020年は4人の報告があった。性別は男性3人、女性1人で、年齢階級別では50～59歳2人、70歳以上が2人であった。遺伝子型はIA型が2例検出された。

推定感染地は国外2人、不明2人であった。国外の推定感染地は中華人民共和国1人、インドネシア1人であった。

推定感染経路は経口感染2人、不明が2人であった。

ウ デング熱

2020年は3人の報告があった。性別は男性2人、女性1人、年齢階級別は、10～19歳1人、20～29歳1人、50～59歳1人であった。血清型の内訳は1型1人、2型1人、3型1人であった。

推定感染地はすべて国外で、推定感染国はモルディブ及びタイ、フィリピン、インドネシアが各1人であった。

エ 日本紅斑熱

2020年は3人の報告があった。性別は男性2人、女性1人で、年齢階級別は30～39歳が1人、50～59歳が1人、70歳以上が1人であった。

推定感染地はすべて国内で兵庫県、和歌山県、広島県であった。

オ ブルセラ症

2020年は1人の報告があった。性別は女性で、年齢階級別は10～19歳であった。

推定感染経路は動物（犬）からの感染、推定感染地は国内であった。

カ ボツリヌス症

2020年は1人の報告があった。病型は乳児ボツリヌス症であった。性別は女性で、年齢は0歳であった。

推定感染経路は不明でハチミツの喫食歴はなし。推定感染地は国内であった。

キ マラリア

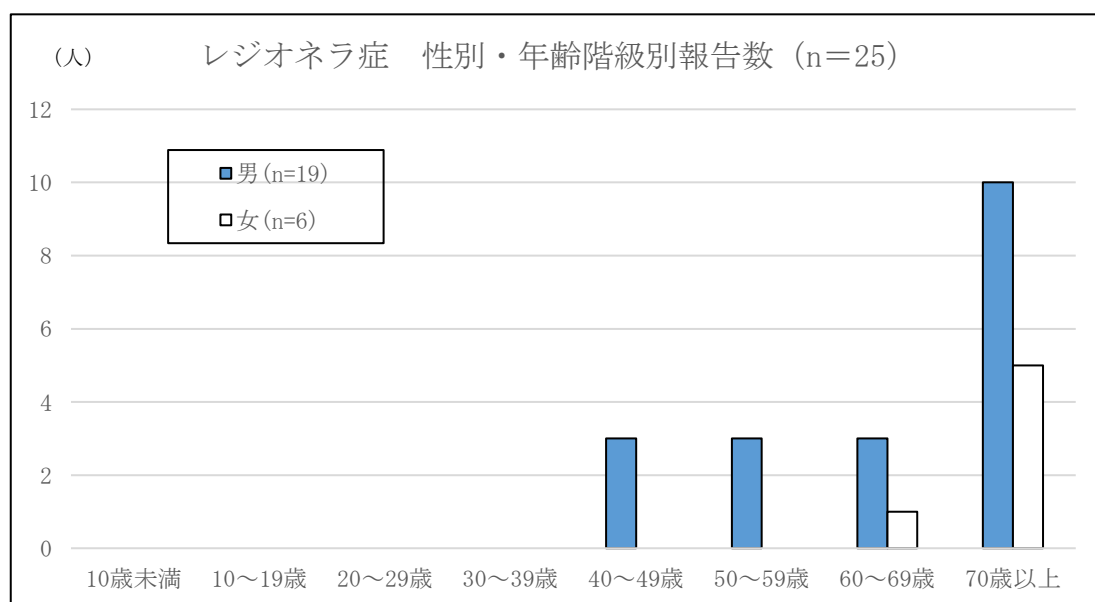
2020年は2人の報告があった。性別はすべて男性で、年齢階級別はすべて30～39歳であった。病型は卵型マラリアが1人、不明が1人であった。

推定感染地はギニア共和国、カメルーン共和国が各1人であった。

ク レジオネラ症

2020年は25人の報告があった。病型は肺炎型23人、ポンティアック熱型が1人、無症状保菌者が1人であった。性別は男性19人、女性6人、年齢階級別は40～49歳3人、50～59歳3人、60～69歳4人、70歳以上15人であった。

推定感染地は国内21人、不明4人であった。推定感染経路は水系感染6人、塵埃感染2人、不明15人、その他2人であった。水系感染のうち、公衆浴場施設（温泉を含む）の利用歴がある者が2人、遊泳場の利用歴がある者はいなかった。



ケ その他の四類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

ウエストナイル熱、エキノコックス症、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キャサナル森林病、Q熱、狂犬病、コクシジオイデス症、サル痘、ジカウイルス感染症、重症熱性血小板減少症候群(病源体がフレボウイルス族 SFTS ウイルスであるものに限る。)、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、チクングニア熱、つつが虫病、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ (H5N1 及び H7N9 を除く)、ニパウイルス感染症、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、Bウイルス病、鼻疽、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、野兔病、ライム病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、レプトスピラ症、ロッキー山紅斑熱。

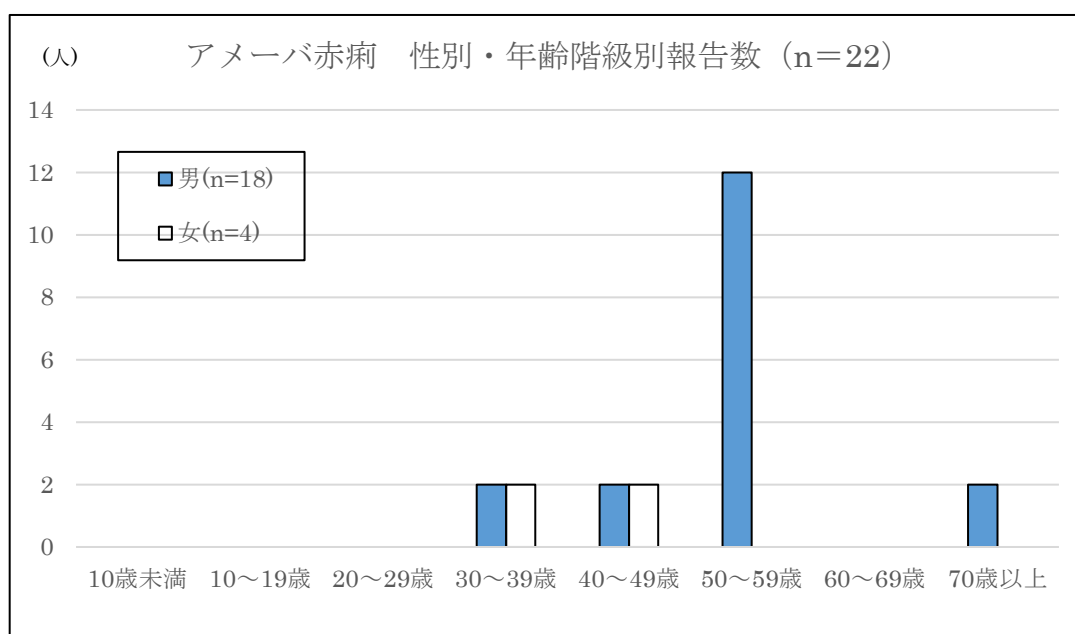
(5)五類感染症(全数把握対象)

ア アメーバ赤痢

2020年は22人の報告があった。腸管アメーバ症21人、腸管外アメーバ症1人であった。性別は男性18人、女性4人で、年齢階級別では30～39歳4人、40～49歳4人、50～59歳12人、70歳以上2人であった。

推定感染地は国内18人、国外2人、不明2人であり、国外感染例2人の推定感染国はマレーシア及びシンガポール、東南アジア複数国であった。

推定感染経路は、性的接触7人（同性間4人、異性間2人、性別不明1人）、経口感染4人、不明11人であった。



イ ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)

2020年は7人の報告があった。病型はB型肝炎が6人、C型肝炎が1人であった。性別は男性が5人、女性2人で、年齢階級別では30～39歳1人、40～49歳3人、70歳以上が3人であった。

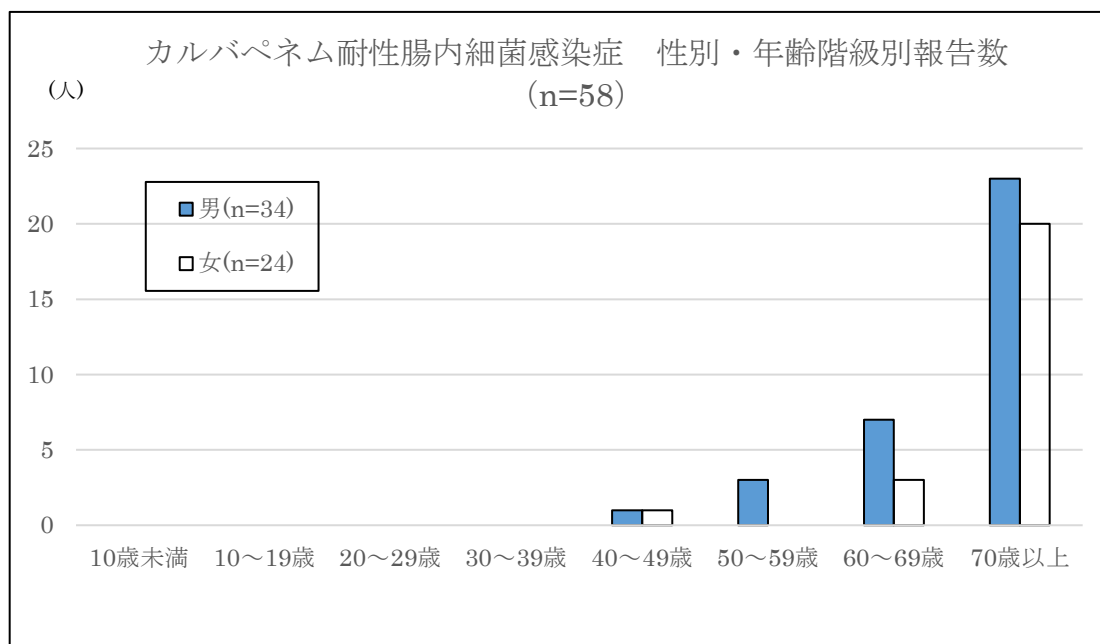
推定感染地は国内が6人、不明1人で、推定感染経路は異性間性的接触が2人、針等の鋭利なものの刺入による感染が1人、不明4人であった。

ウ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)感染症

2020 年は 58 人の報告があった。性別は男性 34 人、女性 24 人で、年齢階級別では 40～49 歳 2 人、50～59 歳 3 人、60～69 歳 10 人、70 歳以上 43 人であった。

推定感染地は国内 62 人、不明 5 人であった。

C P E（カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌）は 21 件あり、内訳は *Klebsiella pneumoniae* は 12 件、*Escherichia coli* は 3 件、*Citrobacter freundii* は 2 件、*Enterobacter cloacae* は 2 件、*Klebsiella aerogenes* は 2 件であった。



カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 分離菌種 (n=52)

菌種	分離件数 (CPE 株数)	菌種	分離件数 (CPE 株数)
<i>Klebsiella Pneumoniae</i>	14(12)	<i>Enterobacter cloacae</i>	14(2)
<i>Escherichia coli</i>	5(3)	<i>Klebsiella aerogenes</i>	16(2)
<i>Citrobacter freundii</i>	2(2)	<i>Serratia marcescens</i>	1

エ 急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)

2020 年は 4 人の報告があった。性別はすべて男性で、年齢階級別は 10 歳未満が 2 人、10～19 歳 1 人、70 歳以上 1 人であった。

推定感染地は国内が 3 人、不明が 1 人であった。病原体は単純ヘルペスウイルス (HSV-1) が 1 人、不明 3 人であった。

オ クリプトスポリジウム症

2020年は1人の報告があった。性別は女性で、年齢階級別は10歳未満であった。推定感染地は国内で、感染経路は不明であった。

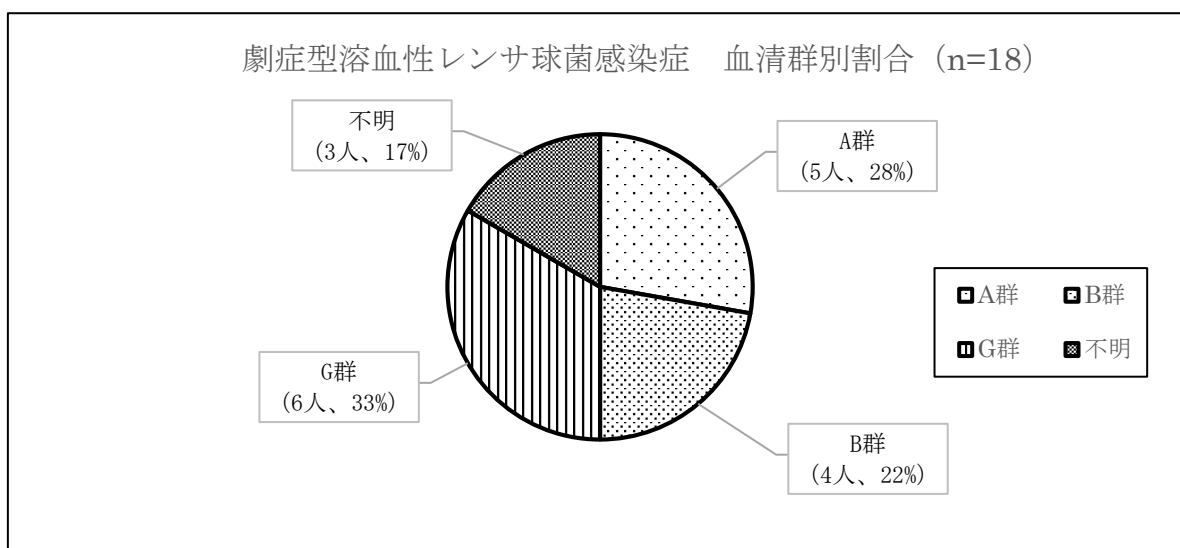
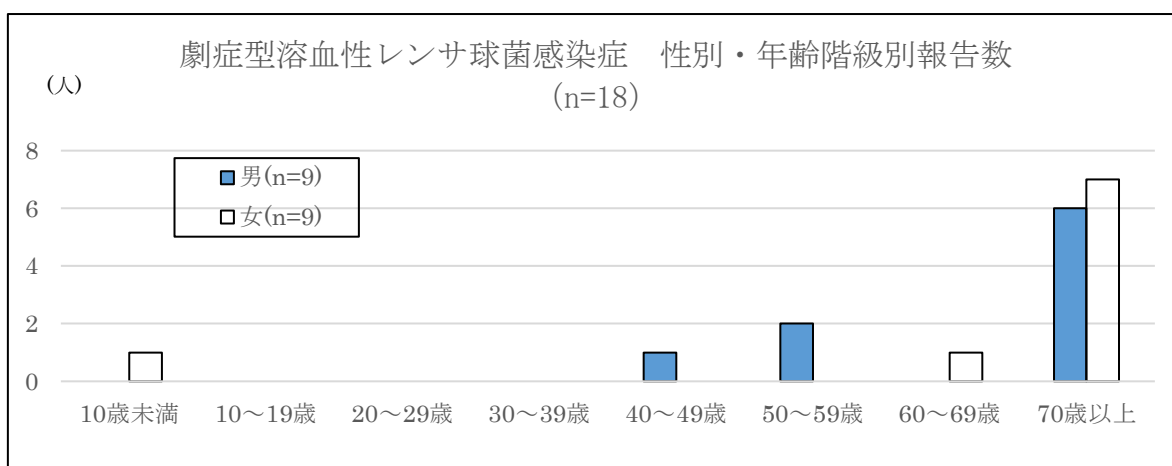
カ クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)

2020年は3人の報告があった。古典型クロイツフェルト・ヤコブ病（ほぼ確実）2人、家族性クロイツフェルト・ヤコブ病（確実）が1人であった。性別は男性2人、女性1人で、年齢階級は50～59歳1人、70歳以上2人であった。

キ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

2020年は18人の報告があった。性別は男性9人、女性9人で、年齢階級別では10歳未満1人、40～49歳1人、50～59歳2人、60～69歳1人、70歳以上13人であった。

推定感染地は国内17人、不明1人で、推定感染経路は創傷感染6人、飛沫・飛沫核感染1人、接触感染1人、その他2人、不明8人であった。



ク 後天性免疫不全症候群

2020 年は 94 人の報告があり、2016 年から 5 年連続で減少している。AIDS 患者 19 人、HIV 感染者 75 人（指標疾患以外の有症者 9 人、無症候性キャリア 66 人）であった。

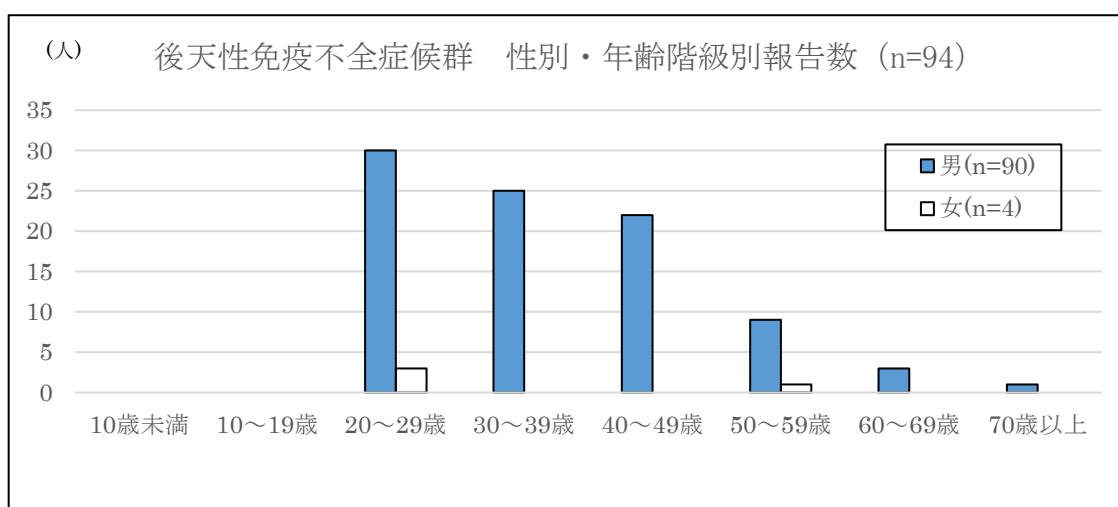
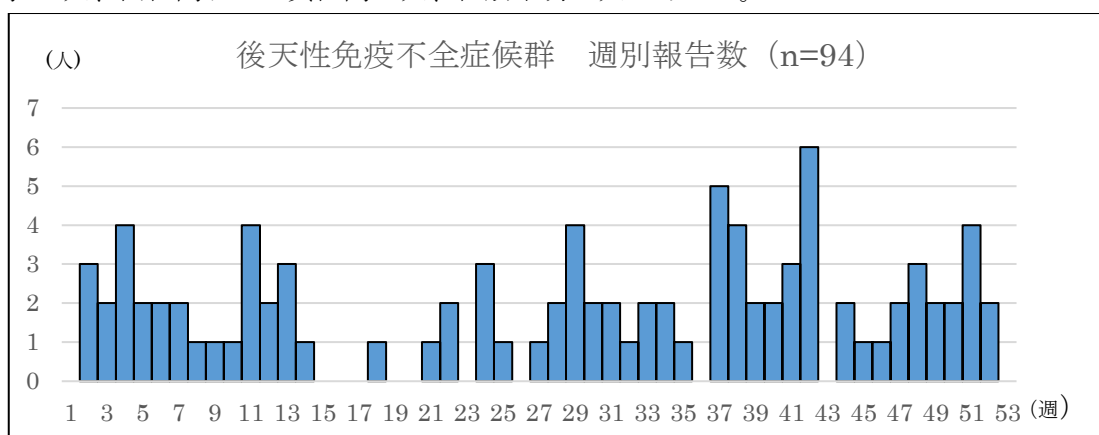
AIDS 患者 19 人の性別は男性 18 人、女性 1 人で、年齢階級別では 20～29 歳 3 人、30～39 歳 1 人、40～49 歳 7 人、50～59 歳 7 人、70 歳以上 1 人であった。

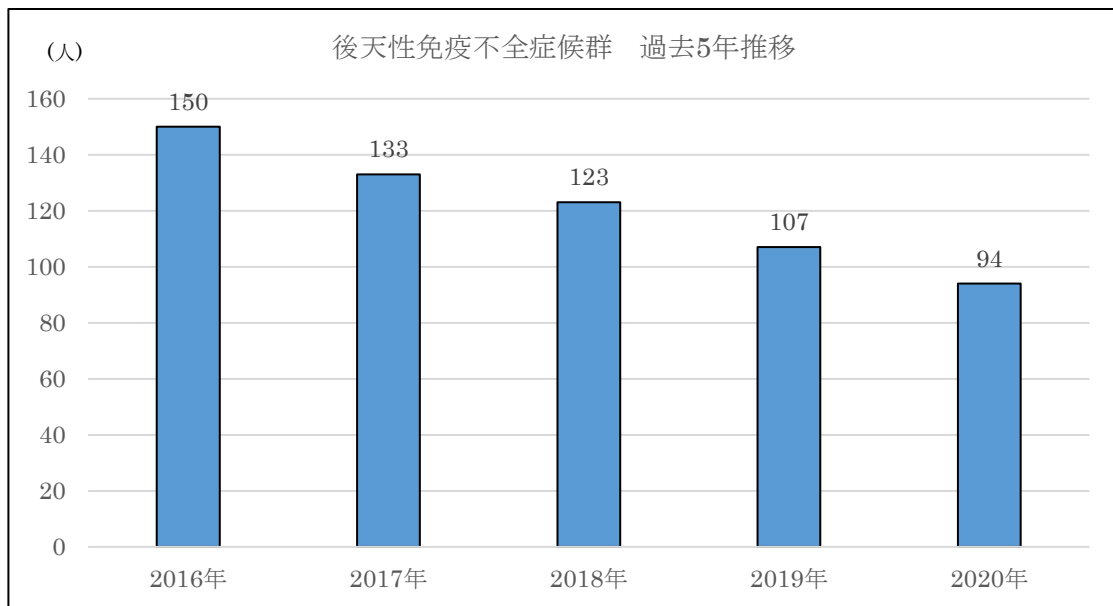
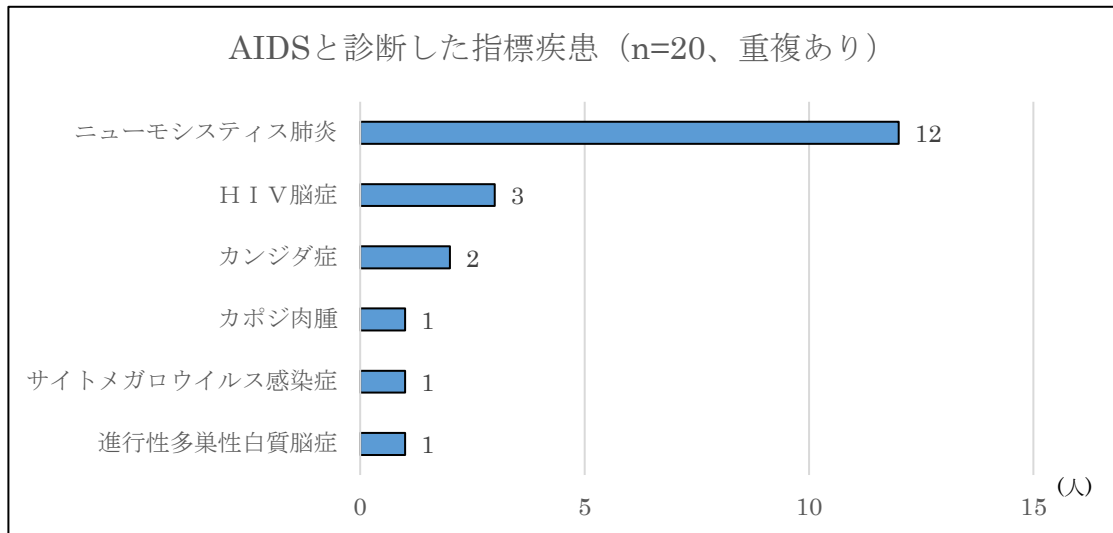
HIV 感染者のうち指標疾患以外の有症者の 9 人の性別はすべて男性で、年齢階級別では 30～39 歳 4 人、40～49 歳 4 人、60～69 歳 1 人、であった。

HIV 感染者のうち無症候性キャリアの 66 人の性別は男性 63 人、女性 3 人で、年齢階級別では、20～29 歳 31 人、30～39 歳 19 人、40～49 歳 11 人、50～59 歳 3 人、60～69 歳 2 人であった。

推定感染地は国内 79 人、国外 3 人、不明 12 人であった。国外感染例 3 人の推定感染国別ではネパール 2 人、中華人民共和国 1 人であった。

推定感染経路が性的接触 84 人、不明は 10 人であった。性的接触は同性間 68 人、異性間 10 人、同性間および異性間 2 人、性別不明 4 人であった。





ケ ジアルジア症

2020年は3人の報告があった。性別は男性2人、女性1人で、年齢階級別では40～49歳が2人、50～59歳が1人であった。

推定感染経路は同性間性的接触2人、不明1人であった。推定感染地は国内2人、不明1人であった。

コ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

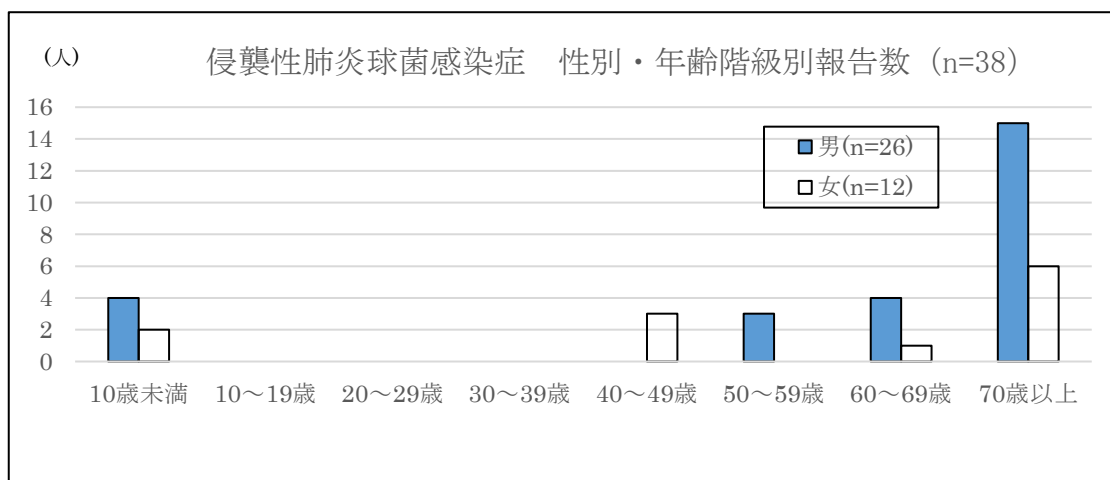
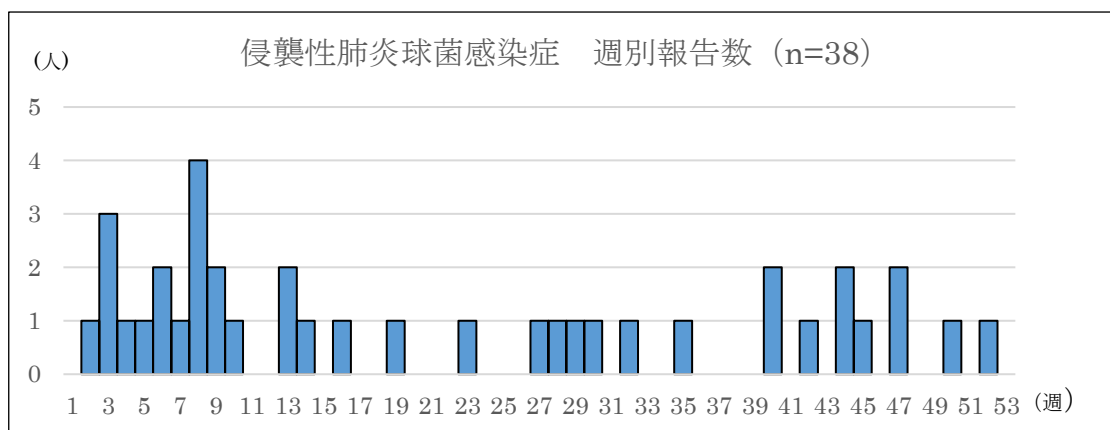
2020年は7人の報告があった。昨年の14人の半数であった。性別は男性2人、女性5人で、年齢階級別では10歳未満1人、20～29歳2人、30～39歳2人、70歳以上2人であった。

推定感染地はすべて国内であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染2人、不明5人であった。

サ 侵襲性肺炎球菌感染症

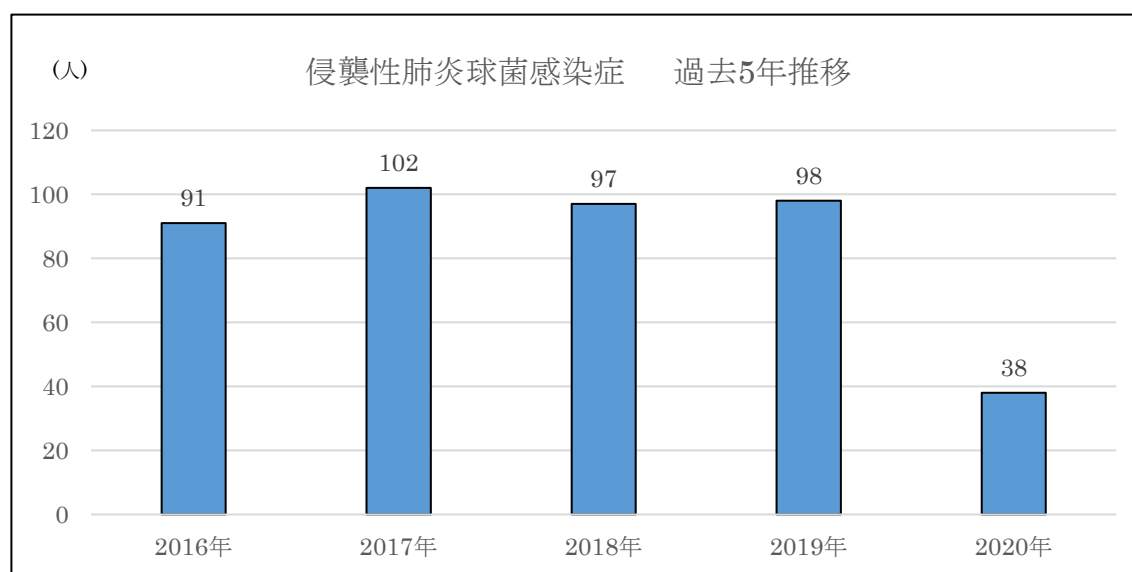
2020年は38人の報告があった。昨年98人に比べ半数以下に減少している。性別は男性26人、女性12人であった。年齢階級別では10歳未満6人、40～49歳3人、50～59歳3人、60～69歳5人、70歳以上21人であった。

推定感染地は国内37人、不明1名で、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染10人、その他2人、不明26人であった。ワクチン接種歴は4回接種5人、3回接種1人、1回接種2人、接種なし12人、不明18人であった。



年齢階級別・ワクチン接種歴 (n=38)

	4回接種	3回接種	2回接種	1回接種	接種なし	不明	合計
5歳未満	4	1					5
5～9歳	1						1
10～64歳					5	4	9
65歳以上				2	7	14	23
合計	5	1		2	12	18	38



シ 水痘(入院例に限る)

2020年は4人の報告があった。性別は男性2人、女性2人で、年齢階級別では10歳未満3人、40～49歳1人であった。

推定感染地は国内3人、不明1人で、推定感染経路(重複あり)は接触感染1人、飛沫・飛沫核感染3人、不明1人であった。ワクチン接種歴は接種歴あり2人、接種なし1人、不明1人であった。

ス 梅毒

2020 年は 638 人の報告があった。2019 年 773 人に比べ減少した。

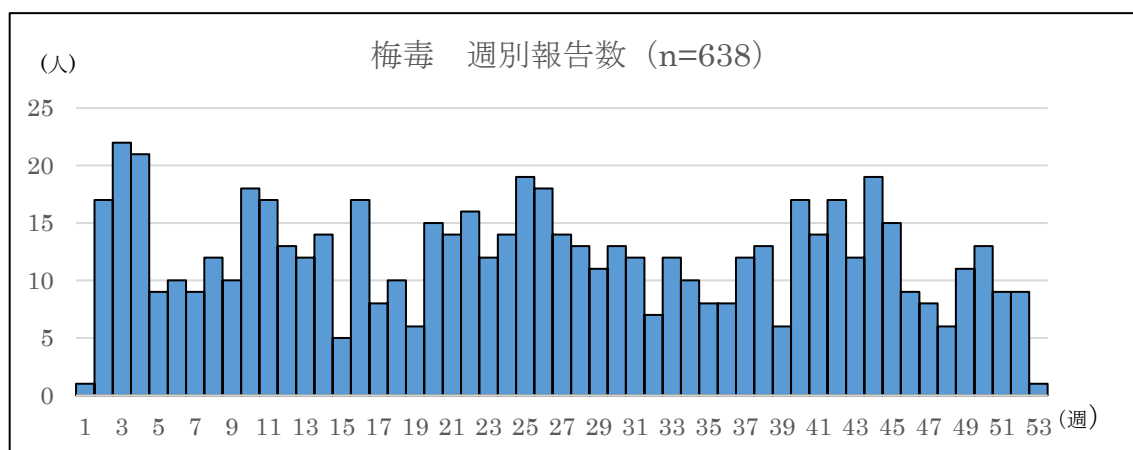
病型別では早期顕症梅毒Ⅰ期 201 人、早期顕症梅毒Ⅱ期 203 人、晩期顕症梅毒 10 人、先天梅毒 1 人、無症候 223 人であった。性別は男性 333 人、女性 305 人であった。年齢階級別では 10 歳未満 2 人、10～19 歳 30 人、20～29 歳 290 人、30～39 歳 129 人、40～49 歳 103 人、50～59 歳 58 人、60～69 歳 11 人、70 歳以上 15 人であった。女性 305 人中、20～29 歳が 200 人で 65.6%を占めた。

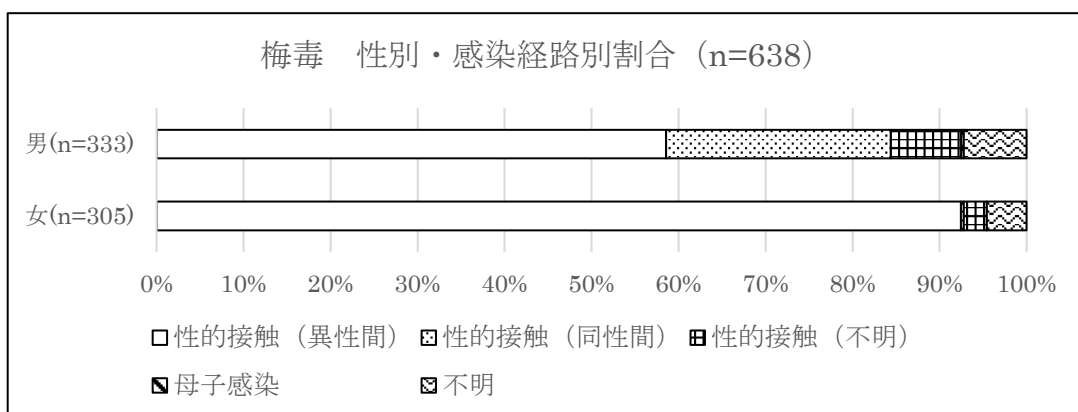
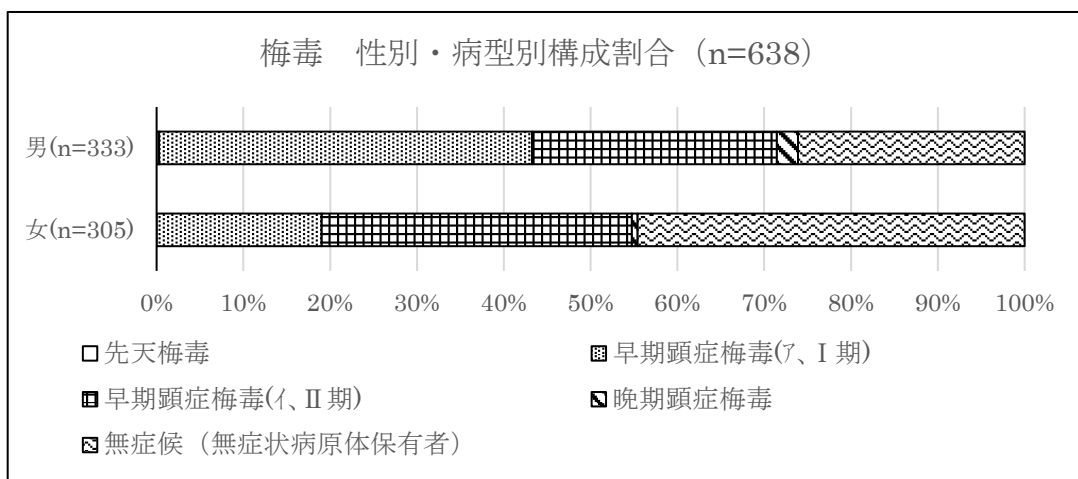
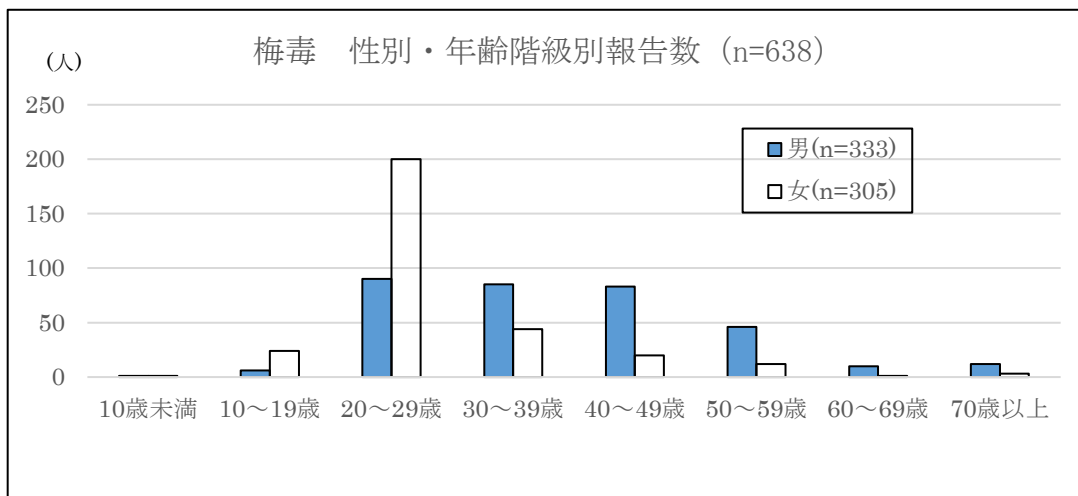
推定感染地は国内 583 人、国外 3 人、不明 52 人であり、国外感染例 3 人の推定感染国はアメリカ合衆国、タイ、中華人民共和国各 1 人であった。

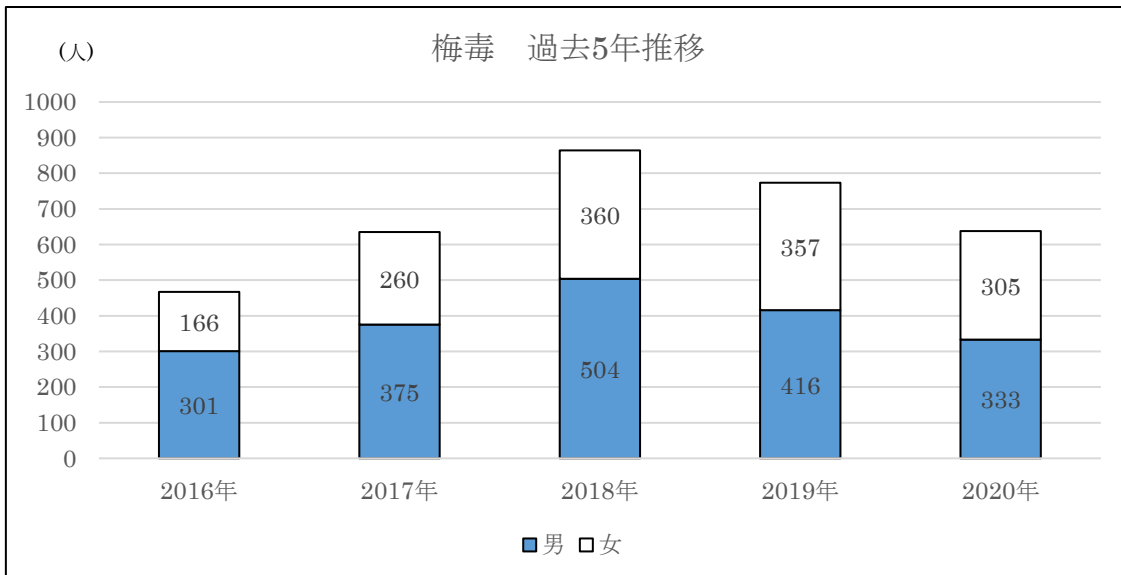
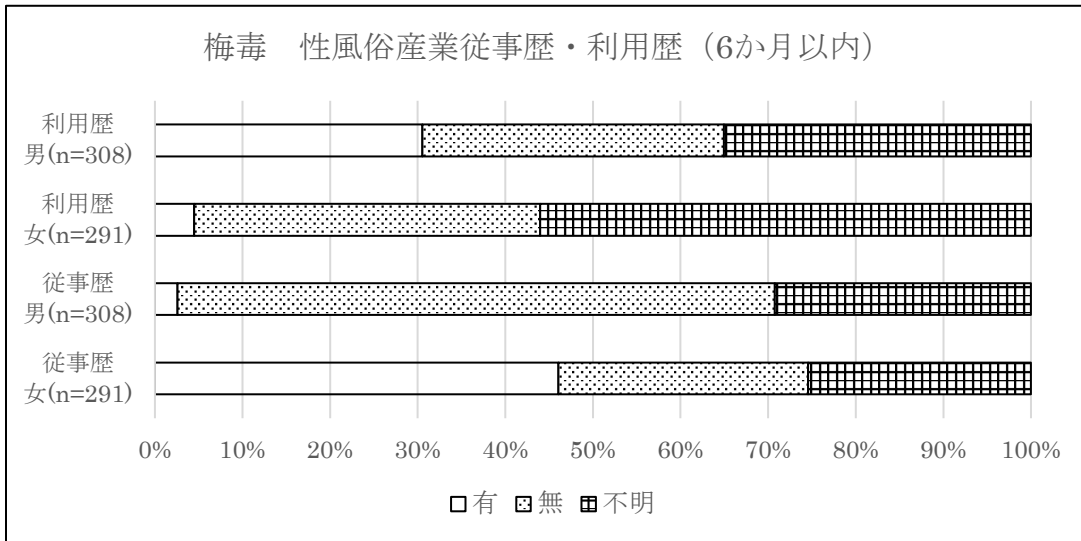
推定感染経路は性的接触 599 人（異性間 477 人、同性間 87 人、性別不明 35 人）、母子感染 1 人、不明 38 人であった。

また、2019 年 1 月より発生届の内容に性風俗従事歴・利用歴等の項目が新たに加わった。性風俗産業従事歴（直近 6 か月以内）有が 142 人、従事歴無が 293 人、従事歴不明は 164 人であった。性風俗産業利用歴（直近 6 か月以内）有が 107 人、利用歴無が 221 人、利用歴不明は 271 人であった。

妊娠の有無について、女性 305 人のうち有 16 人(5.2%)、無 277 人(90.8%)、不明 12 人(3.9%)であった。HIV 感染症合併の有無について、有 53 人(8.3%)、無 307 人(48.1%)、不明 278 人(43.6%)であった。過去の治療歴について、1 年より前が 50 人(7.8%)、1 年以内が 18 人(2.8%)、無 521 人(81.7%)、不明 49 人(7.7%)であった。







セ 播種性クリプトコックス症

2020年は1人の報告があった。性別は男性で、年齢階級別では70歳以上であった。推定感染地は国内であった。推定感染原因は免疫不全であった。

ソ バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)感染症

2020年は4人の報告があった。性別は男性3人、女性1人、年齢階級別では20～29歳1人、70歳以上3人であった。

菌種はすべて *Enterococcus faecium* で、耐性遺伝子は *vanA* が3人、*vanB* が1人であった。推定感染地は国内3人、不明1人であった。推定感染経路は接触感染1人、不明3人であった。

タ 百日咳

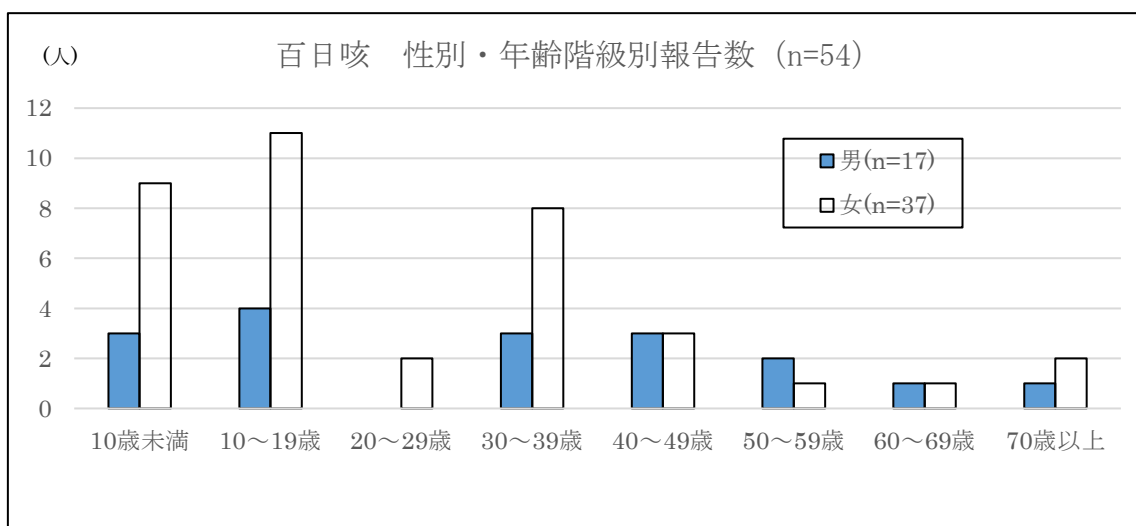
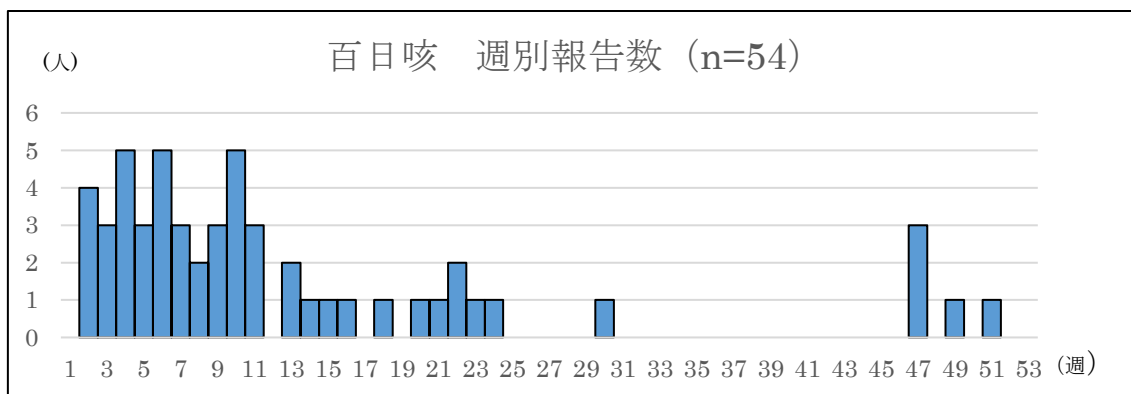
2020年は54人の報告があった。昨年240人に比べ大幅に減少している。

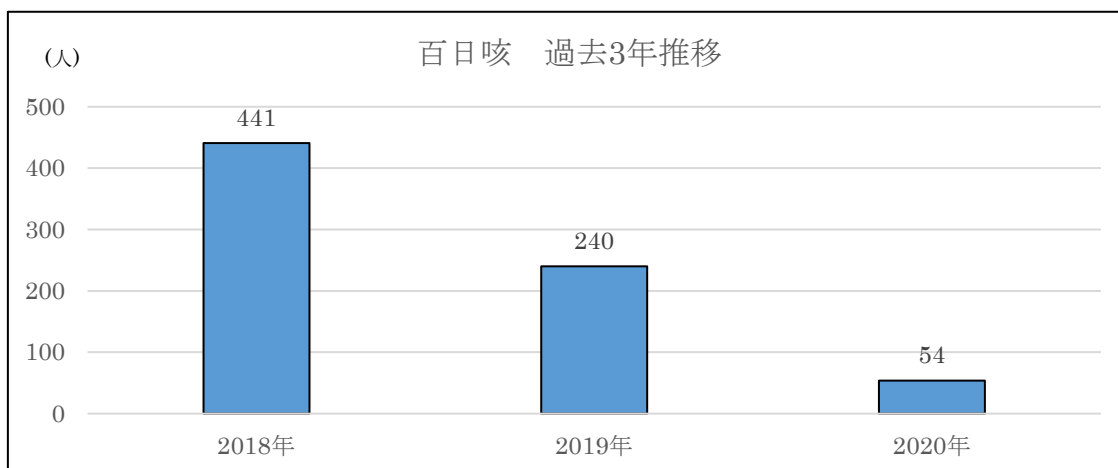
性別は男性17人、女性37人で、年齢階級別では10歳未満12人、10～19歳15人、20～29歳2人、30～39歳11人、40～49歳6人、50～59歳3人、60～69歳2人、70歳以上3人であった。0～14歳までの小児患者報告数は22人で、全報告数の40.7%を占めた。

百日咳含有ワクチン接種歴別では、4回以上接種歴有が21人で全報告数の38.9%を占めた。1～14歳のワクチン既接種者は19人であった。

診断方法（重複あり）は、血清抗体価検査による診断が41人と最多で、次いで遺伝子検査が12人であり、また、分離・同定は1人であった。

推定感染地は国内51人、不明3人であった。

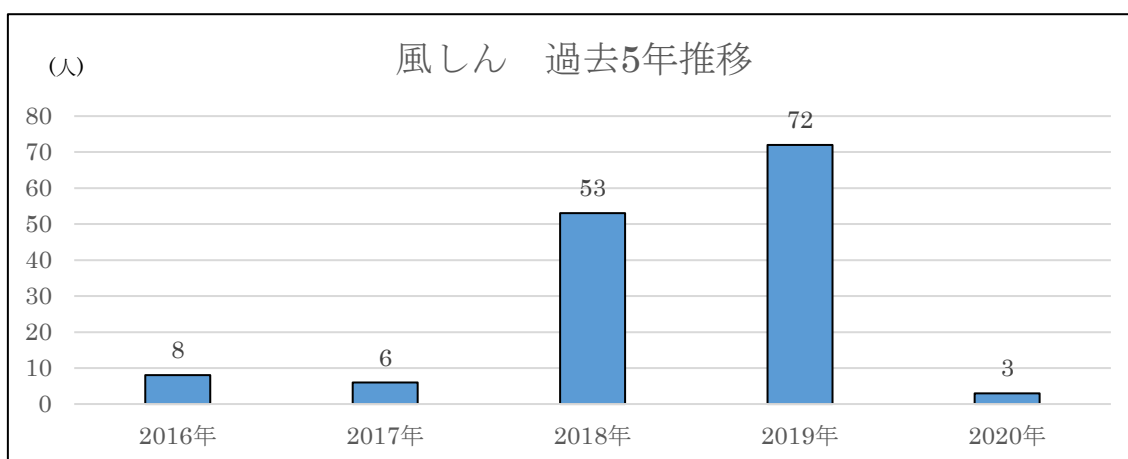




チ 風しん

風しんは法令および予防指針の改正により、2018年1月1日以降、医師は風しんと臨床診断した時点で直ちに届出を行うこと、原則として全例にウイルス遺伝子検査を実施すること、風しん患者が1例でも発生した場合には積極的疫学調査を行うことが求められるようになった。「風しんに関する特定感染症予防指針（厚生労働省告示第百二十二号：平成26年3月28日）」では、「早期に先天性風疹症候群の発生をなくすとともに、令和2年度までに風疹の排除を達成すること」を目標としている。

2020年は3人の報告があり、すべて検査診断例であった。性別は男性2人、女性1人であった。年齢階級別では10歳未満（1歳）1人、10～19歳1人、40～49歳1人であった。血清IgM抗体の検出が2人、ペア血清での抗体陽転が1人であった。風しん含有ワクチン接種歴は、1回接種1人、接種歴なし2人であった。推定感染地はすべて国内であった。

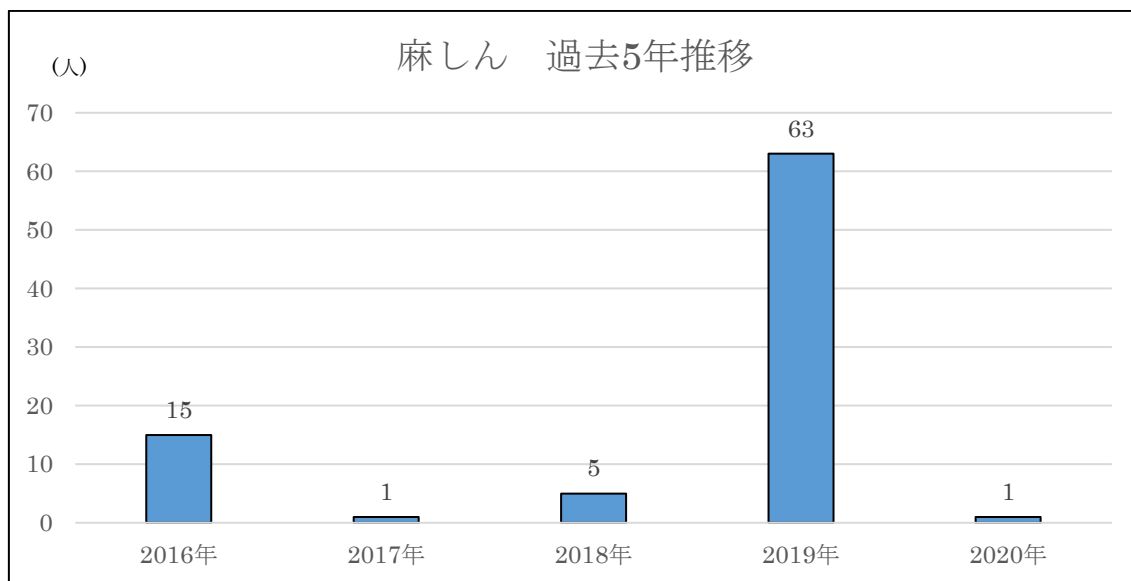


ツ 麻疹

2020 年は 1 人の報告があった。2019 年は市内の大型商業施設で集団感染事例があり 63 人の報告があったが大幅に減少した。

修飾麻疹（検査診断例）での届出であり、血清 IgM 抗体の検出、性別は男性で、年齢は 1 歳であった。

推定感染地は国内で、麻疹含有ワクチン接種歴は 1 回接種であった。



テ その他の五類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）、侵襲性髄膜炎菌感染症、先天性風しん症候群（CRS）、破傷風、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症。

(6) 新型インフルエンザ等感染症

ア 新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とは令和元年 12 月に中華人民共和国湖北省武漢市において確認された、コロナウイルス科ベータコロナウイルス属による急性呼吸器症候群である。

令和元年 12 月に確認されて以降、令和 2 年 1 月 30 日、世界保健機関（WHO）により「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」を宣言され、3 月 11 日にはパンデミック（世界的な大流行）の状態にあると表明され、世界的に感染地域が拡大している。

主な感染経路は飛沫・接触感染である。臨床的な特徴として潜伏期間は1～14日（多くは5～6日）であり、その後、発熱や呼吸器症状、全身倦怠感等の感冒様症状を呈するほか、頭痛、下痢、結膜炎、嗅覚障害、味覚障害等が生じる場合がある。発症者の多くは軽症であるが、高齢者や基礎疾患等を有する者は重症化する可能性が高くなる。

令和2年1月28日に感染症法に基づく指定感染症に指定されたのち、期限の定めなく必要な対策を講じられるように令和3年2月3日に新型コロナウイルス等感染症として法的位置付けが変更された。

2020年は14,538人、男性7,838人、女性6,700人、一日あたりの最大報告数は287名であった（大阪市報道発表資料より）。

年齢階級別では10歳未満348人、10～19歳734人、20～29歳3,860人、30～39歳2,411人、40～49歳1,960人、50～59歳1,742人、60～69歳1,165人、70～79歳1,169人、80～89歳866人、90歳以上283であった。20～29歳が最多で、全体の26.6%を占めた。

